

女子部

一企業研究者の働き方

(株) NTTドコモ 土井千章

このコラムでは企業の研究者でもさまざまな働き方があり、自分に合った働き方が選択できることを少しでもお伝えできればと思う。私は今の会社に入社してから、あらかじめ決められた勤務すべき時間帯（コアタイム）と入社／退社してもよい時間帯（フレキシブルタイム）を考慮しながら自分で始業や就業時間を決めて働くフレックスタイム制、自宅や出張先など勤務先以外で働くテレワークなどいくつかの働き方を経験した。その中で今回はテレワークについて紹介する。

テレワークとはICTを活用して場所や時間に捉われず働く働き方のことであり、自宅で働く在宅勤務、出張先や移動中に働くモバイルワーク、勤務先以外のオフィスで働くサテライトオフィス勤務の3パターンに分けられる^{☆1}。2005年に「テレワーク推進フォーラム」が、総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省の呼びかけにより産学官共同で設立された。本フォーラムでは、2015年11月を「テレワーク月間」に設定し、国民全体に活動の参加を呼びかけてテレワークの推進を行っている^{☆2}。テレワークによって期待される効果は、家庭生活との両立による就労確保、育児や介護を担う者の就業促進、就業機会の増加等による地域活性化、余暇の増大による個人生活の充実、通勤混雑の緩和等がある^{☆3}。最近では、我が国で「一億総活躍社会」

の実現が提案されているが、このテレワークは「一億総活躍社会」を実現するための重要な勤務形態の1つであると思う。

私事で恐縮であるが、私も自宅で働く在宅勤務を選択することがある。在宅勤務の当日は、通勤にかかっていた2時間や昼休みの1時間を自由に使うことができるので、コーヒーを淹れるなど朝の時間にも余裕を持って行動することができるし、部屋の掃除や洗濯などの家事をいつもより念入りに行うことも可能である。仕事の生産性が下がるのではないかと思われる方もいらっしゃるかもしれないが、自宅では、個人主体で行える仕事（たとえば、文献調査、報告書作成、プログラミング等）を選ぶことで効率良く進めることができると感じている。また、昼休みには簡単な料理を作って食事をしてから散歩に出かけることもでき、仕事と私生活のバランスの取りやすさを感じる。このような在宅勤務はさまざまな働き方の1つであるが、日頃から上司や同僚と信頼関係が築かれていることが前提であり、お互いの信用がなければ成り立たない制度であるということは肝に銘じておきたいと思う。

最近では、さまざまな企業で優秀な人材を確保するために、「働きやすさ」を考えた制度や施策を提案し、効率的で個人の条件に合った作業環境を用意している。テレワークもその1つである。これから就職を考えている方は、ぜひこのような制度や施策にも目を向けて、企業評価に利用していただければ幸いである。

☆1 一般社団法人日本テレワーク協会
http://www.japan-telework.or.jp/intro/tw_about.html

☆2 テレワーク推進フォーラム
<http://twp-forum.com/>

☆3 国土交通省テレワーク人口実態調査
<http://www.mlit.go.jp/crd/daisei/telework/p2.html>